

内部評価の結果

【評価結果】

計画どおり実施

【評価理由】

【事業の背景】

工場の果たすべき役割として、市内で発生する一般廃棄物、市外ごみや災害廃棄物の受け入れを行っている。

また、新門司工場の役割として、主に門司区・小倉南区のごみの受け入れ、溶融による埋立処分量の削減やスラグ・メタルの資源化物としての再利用、ごみ発電による再エネ100%電力化への貢献がある。

更に、国の事業支援として、CO2削減率3%以上となる設備については、交付金等の仕組みがあり、国も基幹改良工事を積極的に推進している。

【事業の必要性】

(現状と課題)

新門司工場は、平成19年の供用開始から15年が経過しており、平成28年から長期間の稼働停止を要する設備故障が増加傾向にあることや、処理能力の低下が進行している。

(将来のごみ量推計と処理能力)

基幹改良工事を実施せずに残りの2工場体制となった場合、市内ごみ、他都市ごみや災害ごみの処理ができなくなる。

【事業の経済性】

基幹改良工事(延命化)を行い、10年使用した場合と施設を建て替え30年使用した場合の今後の収支比較を行うと、基幹改良工事は建て替えよりも年平均2.3億円のコスト削減の結果となるため、基幹改良工事(延命化)の方が優位である。

以上を踏まえ、経年劣化に伴う故障や処理能力低下が進行していること、及び、建て替えるよりも延命化して施設を有効活用する方がコスト削減となることから、基幹改良に向けた準備を継続することとし、より事業内容が具体化された後に事前評価2を行うこととする。

なお、公共事業調整会議では、基幹改良によるCO2削減効果について意見があったため、今後の検討の中で精査をしていくこととする。